

## 第2章 所沢図書館の成果と課題

### 1. 第1次ビジョン期間中の成果と課題

#### (1) 所沢図書館の取り組み

##### ア 学びと情報の拠点となる図書館

###### 【成果】

- ▶市民に役立つ情報を提供し、知的財産である貴重な資料を次の世代に伝える地域の情報拠点として、「所沢図書館資料収集方針」に基づき、機能を十分に発揮できる種類と量の図書館資料・情報の充実に努めました。
- ▶調べもののツールであるパスファインダー<sup>※1</sup>を、平成30(2018)年度までに19種作成し、課題解決支援サービスの充実に努めました。
- ▶市の政策決定や行政事務等に関わる資料及び情報等の収集・調査協力・提供に努めました。
- ▶平成26(2014)年2月より、国立国会図書館が全国の図書館等と構築しているレファレンス協同データベース<sup>※2</sup>上に、所沢図書館が受け付けた事例を積極的に公開し、課題解決のための情報提供に努めました。
- ▶レファレンスサービス<sup>※3</sup>について、平成30(2018)年6月より、カウンター及び電話での受付に加え、図書館ホームページから申し込みが可能なWebレファレンスを開始し、課題解決のための利便性の向上を図りました。

---

※1 パスファインダー：(英：Pathfinder) path(小道)+finder(発見者)の複合語。道しるべ・道案内のこと。図書館では、特定の主題や情報について、利用者が自分で容易に調査できるよう、その探索方法を示すことを目的に、関連資料・情報・情報源などをまとめたリストを指す。

※2 レファレンス協同データベース：国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している調べもののためのデータベースのこと。

※3 レファレンスサービス：(英：reference service) 利用者の調査・研究に対して、図書館員が情報あるいは必要とされる資料を提供・回答することによって援助するサービス。また、自館で提供できる資料・情報等では不十分な場合には、利用者が必要とする情報の情報源となりうる専門情報機関などを紹介するサービス(レフェラルサービス)もある。

- ▶平成30（2018）年10月より、所沢図書館全館が国立国会図書館デジタル化資料送信サービス<sup>※4</sup>に参加しました。一般公開している約50万点に加え、絶版等で入手困難な資料約150万点の閲覧及び複写サービスを開始し、情報入手の機会を拡大しました。
- ▶平成30（2018）年3月、図書館電算システムの再構築と同時に、利用者のアクセシビリティ<sup>※5</sup>に配慮した図書館ホームページにリニューアルし、Webサービスへのアクセス向上を図りました。
- ▶図書館広報紙「今月の図書館」を年12回、所沢図書館だより「いずみ」を年3回、また各分館においても広報紙を発行し、情報の発信に努めました。さらに「広報ところざわ」に特集記事を掲載するなど、広く図書館のPRを行いました。
- ▶子ども向け広報紙については「ほんのもりのトベア」と題しリニューアルして、子どもたちがより親しみやすい内容としました。
- ▶時季の話題、時事問題に関連する特集コーナーを設置して図書を紹介を行い、市民の読書への関心と興味を喚起することにより、図書館利用の促進を図りました。
- ▶「空飛ぶ音楽祭」や「新茶まつり」など、市役所関係各課と協力・連携してイベント等への参加を促すとともに、関連図書への興味を誘う展示を行いました。
- ▶高齢者ケアに役立つ本のリストや文学賞受賞作品リストなど、市民の関心が高い情報を提供することにより、読書案内に努めました。



大活字本リストやパスファインダー「さんとく」

※4 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス：国立国会図書館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を承認を受けた全国の公共図書館、大学図書館等に限って、その図書館内で利用できるサービスのこと。

※5 アクセシビリティ：（英：accessibility）年齢や身体障害の有無に関係なく、誰でも必要とする情報にたどり着け、利用できること。アクセスのしやすさや利用しやすさを意味する。

【課題】

- ▷市民に役立つ情報を提供し、知的財産である貴重な資料を次の世代に伝えるという公共図書館の役割を果たすため、「所沢市立図書館資料収集方針」に基づき、機能を十分に発揮できる種類と量の収集・整備を今後も継続して進めていく必要があります。
- ▷従来の資料収集を基本としつつ、図書館資料の保存方法や、今後さらに発展する新技術の情報提供の方法について、検討・活用していくことが課題となります。
- ▷資料の除籍や冊数調整など、蔵書管理を適切に行い、新鮮で信頼できる資料提供が行えるよう蔵書を更新していくことが必要です。
- ▷市役所内の各部署に対し、各事業に係る情報収集に役立つ図書館としての機能の確立及び周知に力を入れていく必要があります。また、類似サービスを実施している課との連携を密にし、協力体制の強化が望まれます。
- ▷図書館広報の充実を図りましたが、図書等の貸出数や来館者数の増加には結びつかなかったことから、今後も広報紙などの発行を通して広く市民に情報発信していく必要があります。
- ▷読書活動推進の一環として、市役所関係各課との更なる連携と、時季の話題、時事問題に関連する特集コーナーの充実とともに、市民が必要とする多様な情報のリスト作成などが求められています。

【目標指標達成状況】

指標名	蔵書数	
説明	適正な蔵書管理による図書館全館の図書資料(雑誌・視聴覚資料を除く、紙芝居を含む)の蔵書数(単位:冊・点)	
目標値算出根拠	継続して資料費が予算措置されることを前提に、毎年度の図書等の蔵書目標値を算出	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	871,000	887,000
実績値	892,387	967,022
達成率	102.5%	109.0%

第2章  
所沢図書館の成果と課題

指標名	貸出数	
説明	所沢図書館全館の年間の貸出数（単位：冊・点）	
目標値算出根拠	毎年度の所蔵資料目標値に、事務事業評価資料回転率数値目標2.0をかけて算出	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	1,843,000	1,874,000
実績値	1,720,640	1,604,514
達成率	93.4%	85.6%
※第1次ビジョンに記載した平成23年度貸出数1,552,266冊は、図書資料のみの貸出数としていましたが、「目標基準例」（日本図書館協会作成）を参考にし、全資料（雑誌・視聴覚資料を含む）の貸出点数としました。		

指標名	利用登録者数	
説明	有効登録者数（単位：人）	
目標値算出根拠	将来の人口減少を考慮し、平成30年度に市民の登録率33.5%に達するよう努力し、市外登録者の割合5%を加算して算出	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	118,900	119,582
実績値	118,456	112,345
達成率	99.6%	93.9%

指標名	レファレンス件数	
説明	専門的な調査を要する利用者からの質問に対し、図書館資料や情報検索機能を活用して回答した数（単位：件）	
目標値算出根拠	平成24年度を基準とし、毎年度2%増を見込んで算出	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	580	620
実績値	798	1,217
達成率	137.6%	196.3%

## イ 誰もが使いやすく、市民とともに歩む図書館

### 【成果】

- ▶平成 27（2015）年 3 月に対面朗読<sup>※6</sup> 奉仕者（有償ボランティア）を新たに 4 名採用し、技術向上のための研修会を毎年開催するなどして、地図やコンピュータ等の専門分野についての朗読サービスの充実を図りました。
- ▶障害のある方への情報提供の拡充に向け、関係各課と連絡調整を図りました。
- ▶自宅が図書館から遠い、開館時間内に来館できないといった、図書館利用が困難な市民に向けて実施しているコンビニエンスストア図書等取次事業<sup>※7</sup>の充実に努めました。また、平成 29（2017）年 10 月には、小手指公民館分館においても図書等取次サービスを開始し、利便性向上を図りました。
- ▶本館受水槽等改修工事や電灯設備安定器及び配線の交換、外壁雨漏り修繕などの施設・設備の修繕等を計画的に行い、安全で快適な読書環境の提供に努めました。
- ▶毎年、市内各館で「所沢図書館まつり」を開催し、講演会、ビブリオバトル<sup>※8</sup>、おはなし会<sup>※9</sup>などの多彩なイベントを実施して、読書の魅力や楽しさを紹介し、読書活動の推進及び図書館の利用促進を図りました。また、本館においては様々な年代の市民の実行委員とともに、協働による企画運営を行いました。
- ▶図書館が市民の身近な存在として、社会参加の場の提供を継続して行ってきたことから、平成 23（2011）年度以降、読み聞かせや配架等の市民ボランティアの活動が年々増加しています。



---

※6 対面朗読：視覚障害などにより、文字（墨字）を読むことが困難な利用者を対象に、要望に応じて、館内の対面朗読室等で、朗読奉仕者が対面で資料を代読すること。

※7 コンビニエンスストア図書等取次事業：契約している市内のコンビニエンスストアで、予約した本やCDなどが受け取れる取り次ぎサービス。

※8 ビブリオバトル：知的書評合戦とも呼ばれるゲーム。発表者がそれぞれのおすすめ本を紹介し、その中から観覧者が一番読みたいと思った本に投票してチャンプ本を決定する。

※9 おはなし会：子どもたちに本や昔話の面白さを実感してもらうために、語りや絵本の読み聞かせなどをする行事。

【課題】

- ▷ 対面朗読や郵送貸出サービスの利用促進を図るため、サービスの周知方法など、情報提供の手段が課題となります。
- ▷ 障害福祉課など、関係各課と連絡調整を図り、障害のある方への情報提供の拡充に向け、連携していくことが重要となります。
- ▷ 障害のある方や文字が読みづらくなった高齢の方にも配慮した大活字本などの図書資料や、DAISY<sup>※10</sup>等の音声資料の整備、並びに DAISY 用機器などの機器・機材の充実を行うことが必要です。
- ▷ コンビニエンスストア図書等取次事業においては、駅から近く、利用が多い店舗の取り次ぎ終了や店舗改装のための一時閉店などにより、利用数が減少しているため、新たな取次ポイントの拡充が課題となっています。
- ▷ 今後も、市民に安全で快適な読書環境を提供するため、「所沢市公共建築物修繕計画」に基づき、適正な管理・運営を図っていく必要があります。
- ▷ 学習意欲のある市民に活動の場を提供することにより、生涯学習を支援していく必要があります。



図書館まつり講演会

---

※10 DAISY デイジー：（英：digital accessible information system）デジタル音声情報システムの略称。障害者用の録音資料作成システムとして、カセットテープに替わり、音声をデジタル化してCDなどに録音、再生する方式。

【目標指標達成状況】

指標名	対面朗読利用時間数	
説明	視覚に障害のある方に、朗読者が希望の図書館資料等を朗読するサービスの利用時間数（単位：時間）	
目標値算出根拠	図書館広報等を利用したPRにより、新規利用者の開拓・利用件数の増加に努め、平成30年度には460時間の実施を目指す	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	430	454
実績値	457.3	342.3
達成率	106.3%	75.4%

指標名	録音図書貸出件数	
説明	DAISY、カセットテープ等の録音図書を全国の図書館から取り寄せ、利用者の中継貸出をした数（単位：件）	
目標値算出根拠	近年の利用数の増加率を考慮し、毎年度5%の増を見込んで算出	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	560	679
実績値	498	435
達成率	88.9%	64.1%

指標名	コンビニエンスストア図書等取次貸出数	
説明	コンビニエンスストア図書等取次で貸出した図書、視聴覚資料等の点数（単位：冊・点）	
目標値算出根拠	平成25年度は店舗数が増加したことから9%の増、以降PRに努め毎年度2%の増を見込んで算出	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	80,000	86,595
実績値	81,977	49,379
達成率	102.5%	57.0%

【トピックス】 図書館サービスネットワーク図

平成31年3月1日現在

図書等取次サービスポイント

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| ①ファミリーマート所沢くすのき台店  | ②ファミリーマート西所沢駅前店 |
| ③ファミリーマート西武狭山ヶ丘駅前店 | ④ファミリーマート所沢松葉町店 |
| ⑤ファミリーマート所沢牛沼店     | ⑥セブンイレブン新所沢駅東口店 |
| ⑦ミニストップ所沢糀谷店       | ⑧小手指公民館分館       |



返却ポスト設置場所

- |                |                |
|----------------|----------------|
| A 並木まちづくりセンター  | B 小手指まちづくりセンター |
| C 小手指公民館分館     | D 山口まちづくりセンター  |
| E 新所沢東町づくりセンター | F 三ヶ島まちづくりセンター |
| G 松井まちづくりセンター  | H 所沢駅サービスコーナー  |

## ウ 子どもたちの読書環境を大切にする図書館

### 【成果】

- ▶子どもたちの年齢に応じたおはなし会やかがくあそび、工作教室等の実施や、季節にあわせた特別行事を開催し、読書への興味喚起に努めました。
- ▶年齢に応じたブックリストを作成・配布し、紹介した図書の展示を行うなどして、読書案内の充実に努めました。
- ▶読み聞かせボランティア講座（平成 26・28 年度）、ストーリーテリング<sup>※11</sup> 入門講座（平成 27・29 年度）等の開催により、ボランティアの育成に努めました。また、毎月おはなし会ボランティア勉強会を実施し、活動に対する支援を行いました。
- ▶子どもの読書活動推進のため、ボランティアの協力によるおはなし会等の行事を実施し、市民に活動の場を提供しました。
- ▶平成 27（2015）年度より「どくしょてちょう（読書手帳）<sup>※12</sup>」の配布を開始し、子どもの読書に対する意欲の向上を図りました。
- ▶子どもの読書活動に関連する講演・講座等を行い、子どもの読書活動についての啓発に努めました。
- ▶ボランティアの協力によるイベント等を実施し、4 月 23 日と定められた「子ども読書の日<sup>※13</sup>」について普及に努めました。
- ▶市内小学校 3 学年全学級および希望する他学年や特別支援学級に対し、図書館の司書<sup>※14</sup>による学級訪問（ブックトーク<sup>※15</sup>）を行い、読書活動の推進および図書館利用の促進を図りました。また、図書館見学・職場体験（中学校）の受け入れを行い、図書館への興味喚起に努めました。

---

※11 ストーリーテリング：昔話などの物語を、語り手が覚えて自分のものとし、本を見ないで語ること。素話ともいう。

※12 どくしょてちょう（読書手帳）：自分で読んだ本や、図書館でかりた本などの記録を取るための手帳。

※13 子ども読書の日：「子どもの読書活動の推進に関する法律」において、4月23日と定められている。国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために制定された。

※14 司書：公共図書館等で図書館資料の選定、発注及び受け入れ、分類、目録作成、貸出及び返却、読書活動推進のための各種主催事業の企画・立案と実施、資料についてのレファレンスサービスや読書案内などを行う専門的職員。

※15 ブックトーク：本に対する興味と関心を呼び起こすため、テーマを決めて、読み聞かせ等を交えながら数冊の本を紹介すること。

## 第2章 所沢図書館の成果と課題

- ▶平成 27（2015）年度から、防衛医科大学校病院院内学級「ひまわり」（並木小学校・中央中学校分教場）への出張おはなし会を開始し、図書館利用が困難な子どもたちへのサービス充実を図りました。
- ▶年 1 回、市内県立 6 高校の司書との懇談会を開始し、学校図書館と公共図書館の情報交換を行いました。また、平成 26（2014）年度から学校業務連絡便の巡回を市内県立 3 高校（所沢中央・所沢北・所沢西）に拡大し、支援を行いました。
- ▶平成 28（2016）年度より、市内医療機関へ「乳幼児の保護者向け図書館利用案内」とリーフレット「赤ちゃんにえほんを」の配置を開始し、読書活動の啓発および図書館利用の促進を図りました。
- ▶平成 29（2017）年度から、こども支援センターと連携して、乳幼児向け親子おはなし会を開始しました。（担当：本館・新所沢分館）。また、「乳幼児の保護者向け図書館利用案内」とリーフレット「赤ちゃんにえほんを」を配置し、読書活動の啓発および図書館利用の促進を図りました。
- ▶平成 28・30 年度に市立幼稚園の保護者向け読み聞かせ講習会に司書を講師として派遣し、読書活動の啓発・推進に努めました。



夏休み工作教室



ブックリスト「ほんがいっぱい」



学級訪問（ブックトーク）

【課題】

- ▷ 様々な機会を利用して乳幼児の保護者への啓発に努めていますが、価値観が多様化する現代においては、読書習慣が身につけている子とついていない子の差が大きくなっています。いかにより多くの保護者に子どもの読書活動の重要性を理解していただくかが課題です。
- ▷ 子どもの年齢が上がるにつれて、本を読む冊数や、図書館を利用する頻度が減少する傾向にあります。特に興味や関心が広がる中学生・高校生世代において「読書離れ」が顕著になっていることから、どのように中学生・高校生世代の読書活動を支援していくかが課題です。

【目標指標達成状況】

指標名	子ども向け行事参加者数	
説明	本分館により開催された子ども向け行事の参加者数 (単位：人)	
目標値算出根拠	平成 25 年度は一部の分館が休館となるため現状維持に努め、以降は毎年度 10%の増を見込んで算出	
年度	平成 25 年度	平成 29 年度
目標値	9,000	13,177
実績値	13,253	14,977
達成率	147.3%	113.7%



本館 1 階親子コーナー

第2章  
所沢図書館の成果と課題

指標名	子ども1人あたりの児童書数	
説明	0歳から18歳の子ども1人あたりの市立図書館が所蔵する児童書数（単位：冊・点）	
目標値算出根拠	購入計画、除籍率から算出した児童書数及び人口推計による子どもの数の推移を基に算出	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	5.1	6.0
実績値	5.1	5.6
達成率	100	93.3%
	※数値は年度当初のもの	

指標名	学校関連団体貸出冊数	
説明	本館・分館から学校関連団体に資料を貸出した数（単位：冊）	
目標値算出根拠	児童、生徒数の減少を見込み、平成26年度までは毎年度5%増とし、平成27年度以降は現状維持に努めるものとして算出	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	18,000	20,000
実績値	18,303	21,800
達成率	101.7	109.0%



読み聞かせに向く絵本コーナー（本館）

## エ 郷土の歴史や文化を大切にする図書館

### 【成果】

- ▶ふるさと所沢にゆかりのある作家の著作や、歴史・地域文化・伝統文化に関する資料などの積極的な収集に努めました。
- ▶行政資料や郷土に関連したパンフレットなど、市民に役立つ幅広い情報を収集するとともに、生涯学習推進センター、市政情報センター等の関係機関とも連携し、迅速で効果的な収集・提供に努めました。
- ▶埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センターなどの県立の施設や、株式会社ビクセンといった市内の企業等と、共催による様々な事業を実施するなど、連携の拡大に努めました。
- ▶老人福祉施設等を訪問し、読書の楽しみを伝える出張おはなし会を実施することにより、高齢者の読書環境の充実に努めました。
- ▶平成25（2013）年4月から、図書館が指定する雑誌の購入費用を市内の企業や団体等に負担していただく「雑誌スポンサー制度<sup>※16</sup>」を導入し、資料の充実に努めると共に地元企業のPRの場を提供しました。



出張おはなし会



雑誌スポンサー制度

※16 雑誌スポンサー制度：図書館において、企業などが地域社会貢献の立場から雑誌の購入代金を負担し、その雑誌を寄贈する制度。

【課題】

- ▷郷土資料について、今後も継続的な資料収集を行っていく必要があります。
- ▷引き続き、生涯学習推進センター、市政情報センター等の関係機関との連携・協力を密にし、行政情報などの収集・保存に力を入れていく必要があります。
- ▷ふるさと所沢の歴史を未来に伝えていくためには、収集した郷土資料や行政資料などの保存や情報提供の方法について、検討していく必要があります。
- ▷出張おはなし会等の高齢者に向けた図書館サービスは、今後も需要の増加が予想されることから、さらなる関連機関との連携と事業の拡充が必要です。
- ▷「雑誌スポンサー制度」については、市民に安定的な資料提供を行うため、制度の継続に向けた事業のPR方法の充実と、新規スポンサーの拡大が課題となっています。

【目標指標達成状況】

指標名	郷土資料受入冊数	
説明	郷土資料、行政資料の年間受入冊数（単位：冊）	
目標値算出根拠	資料が電子化されていくことを見込み、平成27年度までは毎年度1%増、以降は現状維持に努めるものとして算出	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	990	1,010
実績値	1,041	1,142
達成率	105.2%	113.1%



本館3階参考図書室

## オ 効率的で効果的なサービスを提供する図書館

### 【成果】

- ▶ 図書館の基本的なサービスについて、全館で均一なサービスが図れるよう、館長会議、業務改善会議、資料担当者会議、児童奉仕会議等の調整会議を毎月行い、意見調整を図りました。
- ▶ 各館の蔵書が過不足なく循環するよう、貸出・配送・返却等の図書の流通について、常に確認し、効果的であるよう見直しを図りました。
- ▶ 利用者懇談会の開催やアンケートの実施を通じ、市民の図書館に対する要望や評価を把握し、図書館運営に反映させています。
- ▶ 国立国会図書館や埼玉県図書館協会が開催する「児童サービス研修会」や「参考調査研修会」等の外部研修に毎年度延べ50人以上参加し、図書館職員の専門性の向上を図りました。また、館内研修を毎年度5回以上実施し、業務の中で培われてきた知識とスキルの継承に努めました。
- ▶ 平成24（2012）年度から、分館7館を指定管理者<sup>※17</sup>による運営に移行し、多彩な自主事業の開催や祝休日開館の実施、所沢分館と新所沢分館での平日の開館時間延長など、民間活力の導入による市民サービスの向上を図りました。
- ▶ 分館の運営及び施設管理状況等について、本館職員が定期的にモニタリングを実施し、点検・評価を行うことにより、全館の良質な格差のないサービス提供の維持に努めています。
- ▶ 図書館電算システムについては、利用者の利便性の向上及び効率的な蔵書管理に、継続的に取り組みました。
- ▶ 平成30（2018）年3月に、図書館電算システムを再構築し、図書館のみの独立したネットワークシステムの整備を行いました。サーバのアウトソーシングによる災害時のリスク軽減やセキュリティの強化を図り、安定的なシステムの運用を行いました。
- ▶ システム再構築と同時に、利用者のアクセシビリティに配慮した図書館ホームページを構築し、Webサービスへのアクセス向上を図りました。



---

※17 指定管理者：公の施設の管理運営について、地方公共団体が指定する者。2003年に、地方自治法改正により指定管理者制度が制定された。

【課題】

- ▷ 図書館の基本的なサービスについて、各種調整会議を行い、今後も業務方針を徹底するよう調整することが必要です。
- ▷ まちづくりセンター等への返却ポストの設置など、今後も市民の利便性を考慮したサービス提供場所の設置や事業実施を図っていく必要があります。
- ▷ 利用者懇談会の開催やアンケートを、引き続き定期的の実施し、効果的なサービスが提供されるよう、検証していくことが必要です。
- ▷ レファレンスなど専門的なサービスに対応できる職員を育成していく必要があります。また、図書館職員の資質を維持し、専門性を向上させていくためには、司書資格を有し経験を積んだ職員の確保が課題となっています。
- ▷ 指定管理者制度を導入した 7 分館の運営及び施設管理状況等については、今後も本館職員が定期的にモニタリングを実施して点検・評価を行い、所沢図書館のサービスを向上していく必要があります。
- ▷ モニタリングを行うにあたっては、本館がコントロールタワーとしての機能を維持し、全館で均一なサービスを行うための評価・指導ができる専門知識や経験を持った職員体制の確立が必要です。
- ▷ 図書館電算システムにおいて情報発信できる体制の強化を図り、効率的な電算システムの構築や幅広い情報提供に努めることが必要です。また、今後さらに発展する情報通信技術に対しても研究を行い、活用していくことが必要となります。

【目標指標達成状況】

指標名	司書率	
説明	本館常勤職員及び分館職員総数のうち、司書・司書補を有する職員の割合（単位：％）	
目標値算出根拠	分館は現状維持。本館は職員数を現状維持することを前提に、奉仕業務担当職員が司書等資格を有することとして算出	
年度	平成 25 年度	平成 29 年度
目標値	75.0	75.0
実績値	76.1	71.7
達成率	101.5%	95.6%

指標名	職員研修等参加のべ人数	
説明	埼玉県立図書館等で開催された、各種図書館職員向け研修への、のべ参加人数（単位：人）	
目標値算出根拠	平成24年度実績に、埼玉県立図書館等で開催される専門的な研修3回を追加し、その後維持するものとして算出	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	70	70
実績値	71	66
達成率	101.4%	94.3%

指標名	利用者満足度	
説明	全館で行う利用者アンケートより、サービス満足度を算出（※）。6点満点で評価（単位：点）	
目標値算出根拠	平成24年度を基準とし、25年度には0.1ポイントの上昇、その後サービスの向上に努め、30年度には5.3を目指す	
年度	平成25年度	平成29年度
目標値	5.0	5.24
実績値	5.15	5.07
達成率	103.0%	96.8%
※アンケート満足度項目の選択肢を数値化した点数に回答者数を乗じ、それぞれを加算した後、総回答者数で除して算出しています。		



## 2. 総括

第1次ビジョン期間中の成果と課題について、実施した施策や目標指標達成状況、図書館統計(資料編 p.33~p.36)、市民アンケート調査結果(資料編 p.37~p.55) などから、総括します。

- ▷課題解決支援サービスとして推進している「レファレンスサービス」について、受付件数は増加傾向にあります。一方で、市民アンケートからは、多くの市民がその存在を知らないことがわかりました。さらにサービスの周知に努め、利用促進に向けた取り組みを強化していく必要があります。また、レファレンス調査に対応するため、図書等の資料や各種データベースなど、資料の整備を充実させることが必要です。
- ▷図書館に対して、これまでの「本を借りるところ」といったイメージとは異なり、本に囲まれた心地よい居場所としての場や地域とのつながりを感じることでできる場として要望する市民が多くなっています。子どもから高齢者まで、世代を問わずに誰もが気軽に訪れ、気持ちよく過ごせる居場所としての図書館が求められています。
- ▷市民アンケート調査結果から、世代を問わず、多くの市民が、資料・情報の充実を重要視しており、新鮮で魅力ある蔵書を構築することを要望しています。あらゆる市民の教養、調査、研究、娯楽、趣味等に役立ち、将来にわたって多様な要望に応じられるような資料を収集することが重要です。そのためには、図書購入費の安定的かつ継続した予算措置が必要と考えます。さらに適正な管理のもと、新鮮で調和のとれた蔵書管理が不可欠となります。また、資料の保存方法として、デジタル化を視野に入れ、さらに発展する新技術を取り入れた情報の提供方法を検討することが必要です。
- ▷自宅が図書館から遠く利用が不便、図書館の開館時間内に利用できないなどの状況から、非来館型サービスとして、図書等取次ポイントの拡充が望まれています。図書館統計からは、貸出数や貸出利用者数の減少が見られます。取次ポイントの拡充とともに、安定して利用できる状況をつくることが望まれています。

- ▷統計や市民アンケートからも、年齢によって、図書館の利用率や、図書館に期待するものに違いがみられます。子どもたちが読書の楽しみを知り、豊かな人生を歩んでいけるよう、また高齢の利用者が増えていく中で、生涯にわたる読書活動や学びを支えるために、それぞれのライフステージ※18に応じたサービスを充実させることが必要です。
- ▷図書館でのイベント情報や地域の情報などを、広報紙やホームページから発信していくことも求められています。地域の情報を収集・提供し、また関係機関や地域企業との連携が、人と人とがつながる機会を提供し、地域の活性化を支援することに繋がります。
- ▷市民アンケートから、全体的な読書離れの傾向が見て取れます。特に中学生・高校生の読書離れが顕著になっています。この世代の読書活動への支援が課題です。
- ▷所沢市の図書館サービスの向上を図り、高度化する市民の課題や多様な知的欲求に応えるため、図書館職員に司書としての専門性が求められています。安定して良質なサービス提供を行っていくためには、専門的な知識を備えた経験のある司書を確保するとともに、図書館職員の育成を図っていくことが課題となっています。



本館2階一般室

---

※18 ライフステージ：人の一生を年齢によって幼年期・少年期・青年期・壮年期・老年期などに区分した、それぞれの段階のことをいう。